

# 令和3年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－

## ワークショップ実施計画書

制作団体名	有限会社 劇団風の子
公演団体名	劇団風の子

内容
<p>・事前に各学校に作品全体わかるCD、楽譜、ワークショップの内容・目的、準備してもらったもの等を記したものを送ります。</p> <p>・学校で事前に出演者を決めてもらいます。(各シーン最大20名。応相談。)</p> <p>・出演児童に作品の概要を説明、歌・振りの練習をします。</p> <p>・本公演で劇団のキャストと一緒に全児童に披露しますので、ワークショップ後、本番までに練習しておいてください。</p> <p>1. 初めに、ウォーミングアップとして簡単な表現あそびをして、子どもたちの心と身体をほぐします。</p> <p>2. 劇のストーリー、参加場面の背景をDVDを見ながら説明します。</p> <p>3. グループに分かれて練習します。</p> <p>①「森がいくつ」</p> <p>・まず体育館でおおまかな動線を説明して動いてもらいます。</p> <p>・別室に行き、四つのグループに分かれます。</p> <p>森の木が切り倒され、大きな道路が出来たことで何が起きるのか、どう思うのかをグループ内で話し合い、“一言台詞”や森の中の身体表現を考えます。</p> <p>・体育館に戻り、実際の舞台の寸法できっかけの台詞と共に動きと歌を練習します。</p> <p>・本番までに台詞や動きを練り直して、自分たちらしい表現を追求してもらいたいことを伝えます。</p> <p>②「妖精のシーン」</p> <p>・まず二つ(人数によっては四つ)にグループ分けをします。</p> <p>・本番で自分の座る位置と衣裳(羽根と髪飾り)を確認します。</p> <p>・妖精がどんな動きをするのか、どんな声を出すのか、あそびながら考えます。</p> <p>・お芝居の中のきっかけの台詞を覚え、どこで衣裳を身に付けて立ち、舞台へ出るのか、そしてどう動いてどこで台詞を言うのかを繰り返し練習します。(台詞は役者の後に繰り返す形なので、覚えておく必要はありません)</p>

タイムスケジュール（標準）					
9:30	10:30	11:15	11:20	12:05	（学校の設定の時間に合わせます）
準備		WS-A		WS-B	
* WS-A…挨拶及びウォーミングアップ、説明。体育館と別室（音楽室等）に分かれて練習。					
* WS-B…全員で体育館で練習の成果を発表、お互い見合う。					
* 会場下見及び実務打ち合わせの時間は学校の希望に合わせ WS の前か後で行います。					

派遣者数
3名

学校における事前指導
① 事前にお渡しした CD と楽譜を元に歌を覚えておいてください。
② 特にありません。

令和3年度文化芸術による子供育成総合事業—巡回公演事業—

本公演実施計画書

制作団体名	有限会社 劇団風の子
公演団体名	劇団風の子

<p><b>演目</b></p> <p>「スクラム☆ガッシン 準備完了！第2号計画」（ガッシュ）」</p> <p><b>【スタッフ】</b>          作・脚本／田中つとむ          演出／中島 研          音楽・効果／曲尾友克          美術／浅野井優子・風の子大道具プロジェクトチーム          制作／大森靖枝</p> <p><b>【キャスト】</b>          大堀鷹／川島夏／松田琢也／高村映摩／中瀬かほ／宮澤衣蒨(6～7月)／井部直人(9月)</p> <p>公演時間 (75分)</p>
---

<b>派遣者数</b>
7名(キャスト6名スタッフ1名)

<b>タイムスケジュール (標準～午前公演の場合と午後公演の場合)</b>	
<p>6:00—9:00—10:20—10:30—11:45—12:00—(昼食)—13:30—15:00</p> <p>設営 リハ— 入場 開演 ↑ 終演 終了 撤去開始 撤去終了</p> <p>*児童の参加 *児童の出演</p>	<p>7:30—10:30—(昼食)—13:20—13:30—14:45—15:00—15:30—17:00</p> <p>設営 リハ— 入場 開演 ↑ 終演 終了 撤去開始 撤去終了</p> <p>*児童の参加 *児童の出演</p>

<b>実施校への協力依頼人員</b>
特にありません。

## 演目解説

いろいろな色や、いろいろな音があるように、私たち人間も一人ひとり、皆ちがう感性や個性をもって生きており、それは、とても素敵なことです。この作品では、5人の子どもたちが、いろいろな価値観や考え方の違いにぶつかりながら、笑い、泣き、怒り…、一人ひとりが自分と相手と真剣に向かいあい、お互いをちょっと認めあい、仲間と一緒に一本のお芝居をつくりあげるまでを描いています。

### <あらすじ>

小学四年生の男子四人と女子がひとり、そんな五人の物語。

自分たちでつくったひみつ基地がマンション建設のため壊された。皆、走って走って走って…、着いたところは橋の下。「新しいひみつ基地をつくるまでは、ここを集まる場所にしよう」

\*

今度の学年お楽しみ会の出し物に、自分たちのやりたいことをやろうと言い出したものの、歌は無理だし、ダンスはもっと無理。

「じゃ、劇やらない?」「えー!」と、劇に決まる。

テキスト『小学校劇の本』を読みながら、斉藤は、ますだ屋のおばさんから借りた本『熊と弓』を台本にして、五郎ちゃん、たっつあん、プーヤン、島ちゃんの五人の劇の練習が始まった。しかし、いろんな困難が押しよせてくる。さあ、5人はこの大きな壁を乗り越えることができるのでしょうか…。

## 児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

・劇のあらすじをなるべく丁寧に事前にわかるようにしておくことで、劇の展開に興味をもってもらい、劇中歌や、妖精のユニークな動きを、楽しく表現してもらえるように工夫します。

・又、事前のワークショップでは、アイスブレイクとして「つながり遊び」などをして子どもたちの心と身体を解放できるように進行し、クラスのみんなど力を合わせて表現することが楽しみになるようにします。

## 児童生徒とのふれあい

・出演者と親近感を持てるよう、入場の誘導や終了後の送り出しなど、俳優が劇中の4年生の役のまま会場で子どもたちと接します。

・劇中に5人の子どもたちが、気持ちを1つにして拳を重ねるアクションとともに大声で「スクラム～ガッシン!」と合言葉を言う場面が何度もあります。

劇の最後の挨拶の時、主人公の島ちゃんが、会場にいる子どもたちに向かって「それじゃあ、みんな、いくよー!スクラムー?」というと、子どもたちが全員、練習していないのに「ガッシーン!!」と大きな声で答えてくれます。それは正に学校が一体になったと誰もが感じられる瞬間です。



